

# ふれあい

大代地区コミュニティ推進協議会

事務局：大代地区公民館 ☎364-8442

あいさつは心のふれあい 出会った人と あいさつしましょう

## ふるさとの今昔

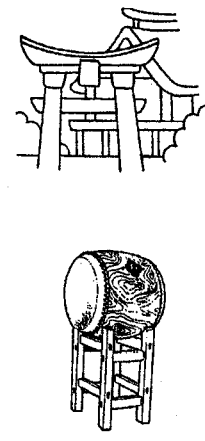
大代西 佐藤 甚六

♪村の鎮守の神様の 今日のはめでたいお祭り日 ドンドンヒャララドンヒャララ 朝から聞こえる笛太鼓♪

皆さんおなじみの小学唱歌の一節です。秋は昔から天高く馬肥ゆるの季節、また実りの秋といい伝えられてきました。我が故郷大代は、この季節旧暦九月二十七日に、柏木神社の祭典がありました。私が少年時代までは、神社は大代一丁目の現在の共和電業さんの付近一帯に鎮座していました。当時の柏木神社のお祭りといえば、近郷近在から大勢の見物人が押し寄せて、神社の廻りには数多くの出店が立ち並び、子供達は、親や親戚から戴いた小遣いをこの日とばかりに買い食いを持ち望んでいました。また、祭りのハイライトとも言わべき老神官の修験行事が、伝統行事として行われたのでした。それは、最初に火渡り(注一)続いて湯立て(注二)の荒行事が、見物人の目を引き寄せたのでした。古文書によると、大代柏木に本山派来宝院があつて、来宝院永順という人が、承応元年(一六五二年)、今から約三五〇年前に神社の隣に修験所を開院し、その子孫が柏木神社の別当を兼ね、現在の宮司本郷家となっております。なお、修験道場は明治時代初期まで使用されていたということです。

(注一) 神社の広場に柴木を燃やし、その上を素足で渡る行事

(注二) 直経約一・二メートル、深さ約五十センチメートルの大釜を煮立て、その熱湯を白衣の装束をした神官が、笹竹に浸して身に振りかけながら、釜を一巡して身を清める行事。



## 【女性教養講座】 館外研修に参加して

大代西 本郷 雅子

十月十三日(水) あいにくの小雨模様のもと、毎年恒例の「女性教養講座」の館外研修が、館長さん他二十二名の参加で実施されました。

今年、陶芸教室、齋理屋敷の見学、不動尊公園の自由散策と聞き期待しての参加です。全員が揃ったので、予定より早い七時五十分丸森に向けて出発。最初は陶芸教室です。「はらから焼」私は初めて体験する焼き物でした。到着が少し早かったので、準備が整うまで、各自自由見学になりました。

思いがけず屋敷の居宅で「大槻香蓉」墨画展が開かれており、私は待ち時間をその作品の数々を見て楽しみました。スピーカーからの連絡で全員集合。指導者の方から作り方の説明を受けて、思い思いの作品創りに取り組みました。

始めての方々も結構おられたようでしたが、皆さん子供の頃の粘土遊びに興じるかの様に夢中になっていました。私は抹茶茶碗と小皿を創りました。一ヶ月後の焼き上がりを楽しみます。次はボランティア・ガイドの方の案内で屋敷の中、店蔵、業の蔵、住の蔵、そして嫁の蔵等を見学、七代目夫人が十七才の時、着用した打ち掛け、花見弁当箱、九谷焼、伊万里焼など豪華で素晴らしいものばかりが揃っていて、目の保養もさせて戴きました。

楽しみの昼食は国民宿舎「あぶくま荘」。食事の後は、お風呂に入る人、公園内を散策する人、そして横になり休む人と思いに過りました。私は食後の運動も兼ねて五人の方々と散歩をしました。溪谷の切り立った岩、澄んだ水の流れ等、心が洗われるようでした。以前に訪れた時は紅葉色鮮やかで素晴らしいが、残念ながら今回は紅葉には少し早かったようです。

帰る頃には出発の天気とは違って変わり、久しぶりの太陽も拝む事が出来ました。途中、公民館の方のご配慮で逢隈のJAで各々夕食の用意も兼ねた、地場産のおみやげを買い求めました。自然美、工芸美に魅了され、心も体もリフレッシュする事が出来た楽しい一日になりました。

陶芸制作の体験学習、歴史探訪学習そして自然観察学習と日帰りの研修で

三つの学習をすることができ参加して本当に良かったなあと思いました。企画して下さった公民館の方々に始め、参加された皆様に心から感謝しながら、次回の館外研修を楽しみにしております。

## 秋の火災予防運動

今年例年にならない暑い日が続きました。季節は巡りこれからは空気が乾燥し、木枯らしが吹き荒れて、日増しに寒さが身にしみ季節になります。また暖房器具を使う火災の発生しやすいシーズンでもあります。今年も全国一斉に『秋の火災予防運動』が十一月九日から十五日までの七日間実施されます。

大代地区では、近年正月飾りの付け火やボヤ等が発生しました。幸にして大事には至りませんでした。くれぐれも火の元には充分注意し、燃えやすい物を屋外に置かないなど、火災の原因を作らないように家族や近所の方々と声をかけを合い、これからの季節も火災のない明るく住みよい町にしましょう。



第六分団長

ご祝儀 お見舞いは 三千元を限度にし お返し物はしなないようにお互い気を配りましょう

# シベリヤの悪夢(No.二十九)

大代南 後藤 清一

銀杏や百合の木の葉が一枚、少し間をおいて、また一枚と落葉の淋しい季節となり、すっかり秋本番。実りの秋。食欲の秋。そして行楽の秋と心が弾む。あちらはどうか、十月も過ぎれば地面は凍り、何よりも最も恐ろしい厳冬がくる。遺族で墓参に同行した兄妹の口説きは続く。元氣な帰りを信じ何十年も待ち続けた母、音沙汰なしの父、それが今更死んでいるなんて……。

俺達は、氣の毒で遠くから涙で見守るだけであった。意地悪のつもりでないが、合流の時間があるからと勞り、急かし後髪を引かれる思いで……。

父さんさようなら。また来ますからと何度も振り返る二人でした。遺骨も埋葬地も未だ解らない人達はまだまだ多い。シベリヤ抑留は、戦争直後における我が国の最も大きな事件だったろう。戦後六十年余りも過ぎれば抑留体験者は、若くとも八十年の歳を重ね、亡くなられた方も少なくない。この人達は、今もって悔しい氣持を持ち続けながらも、どうにか祖国に帰ることができた。凍りつくシベリヤの大地に眠る同志の氣持を察すると、私の体験なんて全く小さなものだと思う。

いままも友の遺骨が掘り出されたというニュースを聞くが、墓参に訪れる度に胸が詰まる思いだ。

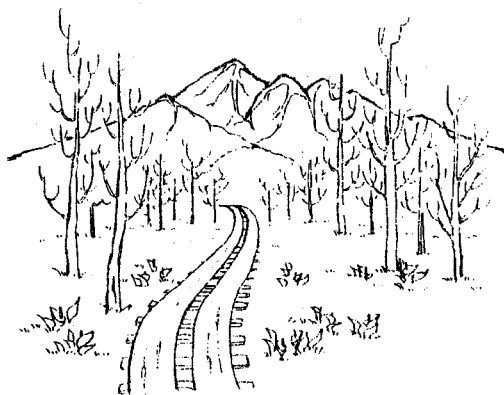
あの地で亡くなられた方は勿論、幸

い生きのびて帰国できた方も、政府からは何の支援もなく、戦後間もない時代には、シベリヤ帰りは「アカ」と蔑視され、そして就職もままならず暫くは苦しい生活であった。俺達はなぜこんな制裁をうけなければいけないのか。俺達は好きこのんで征ったのではないのだ。今もって悔しさだけが残る。

こんな想いを背負った抑留体験者、そして遺族の方々が心から戦後が終わったと云える日が一日も早く来るよう折りたい。

私達はこれからも老骨にムチ打って遺族の方達と墓参を重ねて参ります。

故郷に帰りたい、今もなおさまよいつづける貴男達を想う時、只安らかに眠って下さいと祈ること。これしか出来ないのです。十月二十七日、九段会館で行われる全国中央慰霊祭に今年も出席するつもりです。私も日増しに体の衰えを感じます。何時まであのシベリヤの奥地まで訪れる事ができるのか……。



# 地域のふれあいの場

## 「大運動会」を終えて

大代地区子ども会育成連合会

会長 鈴木良英

去る、十月十一日の体育の日に、第十一回大代地区区民大運動会、区民の皆様約三百名の参加をいただき盛会の内に終了することができました。

主催者として、心より御礼申しあげます。昨年は雨で中止。今年は小雨は降りましたが、朝早い時間からグラウンド整備をし、何とか決行することが出来ました。年に一度の区民参加の行事です。多くの方々の交流ができ、とても楽しい運動会になったと思います。

来年も地域の皆さんの御意見をいただきながら、より多くの方々が気軽に参加ができる運動会になるよう努めてまいりたいと思います。

## 文芸短評

大代西 藤田遊子

『霜降や立方体の鯨肉』 辻 桃子

寒い朝起きてみたらあたり一面に霜が降りていた。なぜ鯨肉が出てきたのか不思議でしょうが、これはイメージ上のことで二句一章の名句となった。身近な題材を逃さず、平明に詠む鋭いセンス。絶賛。童子主宰。現代俳句協会会員。俳句はがき絵講師。実用俳句歳時記など著書多し。NHK俳句王国の選者。西施のよう。弘前に住む。『垂り雪三角屋根の窓濡らす』 遊子

## 短歌

大代南 本郷 貞子

万歳と終戦の日に叫べるを

いまは諾なうムクゲ咲くみて

(ムクゲ韓国国花)

大代西 小倉 紀美子

道端の足湯の立札目に入り吾も浸りき

心地良き温泉 (道後温泉にて)

大代西 佐藤あさよ

我が視力劣えたるを意識して先の不安

秘めて草引く

## 俳句

大代西 松浦 富男

ちろろ鳴く暁開の空に妻逝きぬ

働いて天折哀れ百合の花

病床に帰るあて無き夏 茜

西馬内の腰の妖艶盆おどり

三更の風来て揺れる女郎花

笠神西区 本郷 勝子

天の青つきぬけて行く秋 茜

山一面まつむし草のランデブー

谷水で米研ぐ女に秋 茜

しあわせは自己暗示して吾亦紅

秋愁や何度も計る血圧計

